

(公開質問状)

# 吉田総合厚生センターは

## いつ・どこに・どのような内容で!?

教養部長 阪倉篤義殿 京大総長 沢田敏男殿

1980年 6月23日 教養部自治会常任委員会

教養部の貧困で劣悪な現吉田食堂を改築し、会議室、談話室等も含めた総合的な厚生施設として建設することは、実に10年以上に及ぶ教養部の学生・教職員・生協従業員の間で共通した要求である。

現吉田食堂は、今日5000名にも達した教養生を十分に収容する機能はおよそない状態の上、暗くじめじめとして非衛生的である。更に、生協従業員にとっては危険この上ない職場であり、労働強化にもつながっている。このような食堂を、強い要求がありながら今日まで教養部の構成員に押し付けてきたことは、政府文部省と、大塚当局の無責任さを物語っている。

同時にこの問題は、単に食堂問題だけにとどまらず、学生生活に不可欠な、談話室、ホール、更衣室、シャワーなどがほとんどない上、ゼミ・サークルBOXも不足しているという、驚くべき教養キャンパスの貧困さと一体のものである。

教養部自治会は、一貫してこの「吉田総合厚生センター」の早期実現を要求し、クラスから出ているセンターの内容についての要求を集約し、自治委員会でも決議をあげてきた。また、生協・文連などとも協力し、本年も、署名・クラス決議・集会等の運動を大きく押しすすめてきた。

当局は、こうした運動に押しされ、昨年ようやく用地買を決めたが、今年2月の遺跡調査(テスト・ピット)の結果は未だ公表しておらず、一体、いつ・どこに・どのような内容のセンターが実現するのか、皆目不明瞭なまま、今年7月の概算請求を迎えようとしている。これは、署名6000、決議32クラス、集会参加700人という、学生、教職員、生協従業員が団結して示している要求に背を向ける、極めて不当な態度

であると言わなければならない。

教養部自治会常任委員会は、以下の事項について、直ちに全教養生に明らかにするよう、教養部長、並びに京大総長に強く要求する。

- ① 本年2月のテスト・ピットの結果、建設予定地は建設可能なかどうか? もし不可能であるならば、いつまでに新たな用地を決めるのか? 更に、一体いつから建設は開始される見込みなのか?
- ② 今年の政府に対する概算請求の内容には、現吉田食堂の改築の他、会議室や談話室、ゼミ・サークルBOX等は含まれているのか? また今後、学生の要求を盛り込む用意はあるのか?
- ③ 政府は、先の国会で文教予算の実質的削減を決定したが、吉田厚生センターの建設予算や内容について、どのような姿勢を取っているのか? もしそれが不当な姿勢であれば、大塚当局は強く要求する立場に立っているのか?
- ④ 現吉田食堂の跡地は、何に利用するつもりか?

尚、本公開質問状の回答期限は、6月末日までとする。本公開質問状は、6月26日の自治委員会でも更に確認し、厳しく要求する予定であるが、もし、回答拒否などの、不誠実な対応を取るならば、全教養生は、更に団結して闘うであろうことを宣言するものである。